

修士論文（要旨）
2010年1月

大学生の自我同一性の研究
— 同一性地位判定尺度・充実感尺度・統合型 HTP による —

指導 橋本泰子教授

国際学研究科
人間科学専攻 臨床心理学専修
208 J 5007
岡庭正浩

もくじ

1. 序論	p.2
1-1 はじめに	p.2
1-2 自我同一性とは	p.4
1-3 同一性の測定	p.5
1-4 同一性次元アプローチ	p.5
1-5 同一性地位アプローチ	p.5
1-6 日本における青年期の自我同一性の研究	p.7
1-7 充実感	p.8
1-8 統合型 HTP	p.10
2. 目的	p.11
3. 対象と方法	p.11
4. 結果	p.13
4-1 現代の大学生の同一性と充実感の諸相	p.13
4-1-1 尺度の因子分析	p.13
4-1-2 同一性地位判定尺度の結果	p.15
4-1-3 領域別危機-自己投入	p.17
4-1-4 諸領域における危機および自己投入のプロフィールに基づく、各同一性地位の特徴の比較	p.18
4-1-5 充実感の諸相と同一性地位間での比較	p.21
4-1-6 同一性地位間での描画特徴における検討	p.23
4-2 学校群と性別による比較	p.24
4-2-1 同一性地位の諸相と危機・自己投入	p.25
4-2-2 充実感の比較	p.34
4-2-3 描画特徴の検討	p.36
5. 考察	p.37
5-1 同一性地位間での比較	p.37
5-1-1 同一性地位の諸相と領域別自我関与水準	p.37
5-1-2 充実感の比較	p.39
5-1-3 描画特徴の検討	p.40
5-1-4 大学生全体及び同一性地位による総合考察	p.42
5-2 学校群と性別による比較	p.43
5-2-1 同一性地位の諸相と領域別自我関与水準	p.43
5-2-2 充実感の比較	p.43
5-2-3 描画特徴の検討	p.44
5-2-4 学校群と性別による総合考察	p.46
5-3 総合考察	p.46
5-4 今後の課題	p.47
6. 参考文献	p.48
7. 巻末資料	p.53
8. 謝辞	p.57

1. 問題と目的

大学生の同一性地位の分布状況や同一性地位と充実感の関係については、加藤（1983）や、森、河村（2001）によって研究がなされてきたが、加藤の研究が行われた 80 年代前半と現在とでは大学生を取り巻く環境は変化しており、大学生の同一性地位の諸特徴も変化していることが考えられる。そこで本研究では、現代の大学生の同一性地位の分布状況、充実感の様相、領域別の危機および自己投入、統合型 HTP における描画特徴との関係を調査し検討する。また、先行研究との比較により、大学生の自我同一性について検討する。

2. 対象と方法

対象：東京都と埼玉県の私立 4 年制大学四校の学部生 314 名、うち有効回答数 275 名（87.6%）。平均 20.24 歳、標準偏差 1.69。男性 173 名、女性 102 名。

調査時期：2008 年 6 月～11 月

手続き：調査対象の大学生に、同一性地位判定尺度（加藤、1983）、領域別危機－自己投入質問紙（加藤、1983）、充実感尺度（大野、1984）、統合型 HTP を、質問紙にて講義時間内に配布、実施した。所要時間は 10～20 分間であった。

3. 結果と考察

因子分析の結果、同一性地位判定尺度において新たに「自己投入」と「危機」の 2 因子を抽出し、その 2 因子の組み合わせから、大学生を「A：同一性達成（97 人）」「B：権威受容（52 人）」「C：同一性拡散（126 人）」の 3 地位に分類して検討した。その結果、大学生全体としては、危機や自己投入について考える際に「将来の仕事」や「自分がめざすべき生き方や価値」などが、平均的な重要性が高い領域であった。また、同一性地位ごとの特徴をみてみると、「自己投入」の多くの領域において同一性達成地位・権威受容地位が同一性拡散地位よりも高いという結果になった。なお、充実感については、表 1 に示す。

表 1. 各同一性地位ごとの充実感の得点の平均値と標準偏差および F 値（N=275）

	A(97人)	B(52人)	C(126人)	F値	多重比較
充実感気分－退屈・空虚感	16.43 (4.95)	16.88 (4.32)	13.44 (3.84)	18.05***	B, A>C
自立・自信－甘え・自信のなさ	16.16 (3.69)	15.12 (3.19)	14.08 (3.69)	9.22***	A>C
連帯－孤立	17.21 (4.37)	18.94 (5.03)	14.94 (3.93)	17.86***	B, A>C
信頼・時間的展望－不信・時間的展望の拡散	19.09 (4.02)	18.88 (3.39)	15.53 (3.64)	29.87***	A, B>C

() 内は標準偏差

*** : $p < .001$

また、各地位の描画特徴については、付加物や描線において、それぞれの地位の特徴が現れる結果となった。上記のことから、同一性達成地位においては、多くの領域での高い自己投入と充実感が、権威受容地位においては、同一性達成地位と似た傾向を示しつつも「目指すべき生き方」についての危機と自己投入の低さが、また、同一性拡散地位においては、多くの領域での低い自己投入と充実感の低さが特徴として明らかとなった。

4. まとめ

このように、本研究において、現代の大学生の同一性や充実感の諸相について検討するとともに、描画法から検討することもできた。なお、被験者の属する学校の種類や性差についても検討したところ、被験者の所属する学校の種類によって、危機や自己投入の経験や具体的な領域、さらに描画特徴についても違いが出るということが明らかになった。また、性差については、同一性地位の分布や充実感に性差は無かったが、政治や家族との関係において、男女の意識の違いが各領域や描画特徴の中に明確に表れる結果となった。

参考文献

- 1) 青山桂子・市川珠理 2006 青年期におけるアイデンティティの感覚と統合型 HTP の描画特徴 心理臨床学研究,24(2),232~237
- 2) 橋本泰子 1996 現代日本における青年の価値観の様相 城西大学女子短期大学部紀要,14(1),41-55
- 3) 加藤厚 1983 大学生における同一性の諸相とその構造 教育心理学研究,31(4),292-302
- 4) 加藤厚 1986 同一性測定における 2 アプローチの比較検討 心理学研究,56(6),p357~360
- 5) 三上直子 1995 S-HTP 法—統合型 HTP 法による臨床的・発達のアプローチ— 誠信書房
- 6) 森美海子・河村茂雄 2000 大学生の自我同一性に及ぼす大学生生活の充実感についての一考察 日本教育心理学会総会発表論文集,(42),246
- 7) 森美海子・河村茂雄 2001 大学生における自我同一性地位と充実感に関する一研究 岩手大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要,11,115-125
- 8) 無藤清子 1979 「自我同一性地位面接」の検討と大学生の自我同一性 教育心理学研究,27(3),178-187
- 9) 大井修三・返田健 1996 大学生の自我同一性に関する研究(5):生活史に見られる地域の特性と自我同一性への影響 岐阜大学教養部研究報告, 34,33-53
- 10) 大野久 1984 現代青年の充実感に関する一研究:現代日本青年の心情モデルについての検討 教育心理学研究,32(2),100-109
- 11) 大野久・茂垣まどか・三好昭子・内島香絵 2004 MIMIC モデルによるアイデンティティの実感としての充実感の構造の検討 教育心理学研究, 52(3),320-330
- 12) 佐藤公代・赤澤淳子・寺川夫央 1996 青年期における自我同一性の感覚と役割受容および充実感との関係 愛媛大学教育学部紀要 第 I 部 教育科学,43(1),81-91
- 13) 田畑光司 2006 描画テストに関する基礎的研究—大学生の S-HTP 法 埼玉学園大学紀要,人間学部篇,(6),111~119
- 14) 渡邊恵子・赤嶺淳子 1996 大学生のアイデンティティ地位・充実感・時間的展望:学年差・性差の検討 日本女子大学人間研究,32,25-35
- 15) 吉本美紀 1985 自我同一性の測定—自我同一性簡易尺度と同一性地位判定尺度— 和薬科大学紀要,(20),p13~38